
2013年7月19日

みちのく復興事業 パートナーズ

みちのく復興事業パートナーズは、東北のこれからを支えていく
現地のリーダーたちを、企業が力を合わせて支援していくことを
通じて、地域の自立的な復興の流れを支えることを目指してい
る企業コンソーシアムです。

みちのく復興事業パートナーズの全体スキーム

東北で復興に取り組む現地のリーダー



右腕派遣プログラムで派遣された右腕



みちのく起業支援対象の起業家

企業リソースを活かした支援

専門性を活かした支援

購買/ファンづくり

社員派遣

おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO.



dentsu

TOSHIBA
Leading Innovation >>>



参画企業（2013年7月現在）：味の素株式会社、花王株式会社、株式会社損害保険ジャパン、株式会社電通、株式会社東芝、株式会社ベネッセホールディングス

みちのく復興事業パートナーズは、東北のこれからを支えていく現地のリーダーたちを、企業が力を合わせて支援していくこと通じて、地域の自立的な復興の流れを支えることを目指している企業コンソーシアムです。

現在、味の素株式会社、花王株式会社、株式会社損害保険ジャパン、株式会社電通、株式会社東芝、株式会社ベネッセホールディングスの6社が参画しています。（2013年7月現在）本コンソーシアムでは、彼らリーダーたちと共に現地のニーズを明らかにし、企業の持つ人材、情報、専門性などのリソースに的確につなげたり、現地の取り組みの情報発信を支援していくことで、東北の自立的な復興の流れを支えています。

みちのく復興事業パートナーズの事業計画

2012年度

2013年度

地域の課題・ニーズの把握

- 6月研究会
 - 7月研究会
 - 8月研究会
 - 10月研究会
 - 12月～1月 被災地子ども教育関連ニーズ調査
 - 2月 南三陸視察

企業のリソースを活かした支援

- 7月～9月 現地への社員派遣
 - 9月 企業ECサイトを活用した、現地パートナーとの商品開発と販売
 - 12月 社内イベントを利用した東北のファンづくり支援
 - 2-3月 企業の専門性を活かした、コミュニケーション領域での支援
 - 3月 企業の専門性を活かした飲食関係の事業者への衛生管理講習会

情報発信

- 2月 みちのく復興事業パートナーズのWebオープン
 - 3月 初の5社共催イベント「みちのく復興事業シンポジウム」開催

2012年度のみちのく復興事業パートナーズの上期は、東北のニーズを知り、現地のリーダーとの関係を構築するところに重点を置いた結果、下期に各社の様々な支援の取り組みが推進することができました。

その結果、支援の方向性として、東北のリーダー・起業家・右腕など、事業の担い手を支えていく「ヒトづくり」と、東北のリーダー・起業家たちが取り組む事業が成果につながり持続的に発展していくことを支えていく「コトづくり」という軸が見えてきました。2013年3月にはイベント「みちのく復興事業シンポジウム」を参画企業5社で開催することもでき、企業が被災地にどう向き合うのかを共に考えていくための有効なスタートの基盤が構築できました。

地域の課題・ニーズの把握

復興に取り組む現地のリーダーを通して現地の課題やニーズを把握し、企業のリソースを活かしてどのような支援ができるのかを検討しました。

- 被災地子ども教育関連ニーズ調査（2012年12月～ 2013年1月）
- 2011年に語られていた被災地の教育支援ニーズは、どう変化したか
- 現在放置されている、または新たに現出した支援ニーズとは何か

- 東北における農業六次産業化プロジェクトの取り組みについて（2012年7月30日）
（ゲスト）
東北Rokuプロジェクト
株式会社ファミリア 代表取締役 島田 昌幸 氏

- 漁業を通じた東北の復興について（2012年8月29日）
（ゲスト）立花 貴 氏
（株）四縁 代表取締役
（株）OHガッツ 発起人・右腕役員
（社）Sweet Treat 311 代表理事
（社）東の食の会 理事
（社）3.11震災孤児遺児文化スポーツ支援機構 常任理事

- 「起業」を通じた復興の取り組みについて（2012年10月31日）
（ゲスト）みちのく起業の起業家
- 「虹のおかしやさん」未来創生プロジェクト 伊藤 あづさ氏
- 大堀相馬焼のECサイト販売事業 松永 武士氏
- 震災における備蓄商品開発プロジェクト 島田 昌幸氏
- 到福医療（とうふくいりょう） 加藤 裕介氏



研究会「東北における農業六次産業化プロジェクトの取り組みについて」のゲスト
島田 昌幸 氏



研究会「漁業を通じた東北の復興について」のゲスト
立花 貴 氏

企業のリソースを活かした支援（2012年度の取り組み）

● 現地で復興に取り組む団体とのマッチング

◇ 味の素株式会社



現地と連携した復興支援の取り組みを進めるため、宮城県牡鹿地区を中心に活動するボランティアナースの団体、キャンナス東北と、岩手県大船渡の仮設住宅の住民支援に取り組む団体とのマッチングを実施。



仮設住宅での取り組みを視察

● 被災地の飲食関係の事業者に向けた企業の持つ衛生管理のノウハウを伝える支援

◇ 花王株式会社



・宮城県南三陸で、飲食関係で事業に取り組んでいる事業者に対して、企業の持つ衛生管理のノウハウを伝える講習会を実施。（2013年2月5日）



衛生管理講習会の実施風景

● 宮城県牡鹿地区を中心に活動するボランティアナースの団体、キャンナス東北への社員派遣による支援

◇ 株式会社損害保険ジャパン



・石巻の復興支援に取り組む団体へ社員を業務で出張派遣（2012年7月～2012年9月）
・業務の効率化、活動成果の「見える化」を支援



現地団体のスタッフと打ち合わせをしている社員

● 企業の専門性を活かした、現地のリアルな状況を伝える支援

◇ 株式会社電通



仙台イベント(2013年2月23日)の企画および広報面での支援、参画企業5社共催イベント「みちのく復興事業シンポジウム」(東京・電通ホール、3月13日)の企画提案およびプロデュース面での協力を行った。



出演者の現地取材

● 企業ECサイトを活用した、現地パートナーとの商品開発と販売

◇ 株式会社ベネッセホールディングス



・グループ会社のECサイト「ベネッセライフスマイルショップ スマイルバスケット」で、宮城県牡鹿半島の漁村のお母さんたちの手作りアクセサリーO C I C Aを販売（2012年9月～）。また、宮城県の地元女性たちの手仕事プロジェクトWATALISと商品の協働開発を実施



ECサイト「スマイルバスケット」に掲載されたOCICA

事例① 社員派遣による支援

被災地域の住民の健康を守る支援活動を行う団体に社員を派遣し、業務効率化、活動の成果の「見える化」をサポート

株式会社損害保険ジャパン 3ヶ月にわたり計 10名の社員を『業務として』派遣
(2012年7月～2012年9月)

【社員派遣先】 キャンナス東北
【地域】 宮城県石巻市牡鹿エリア

【実施概要】

キャンナス東北は、ボランティアの看護師や作業療法士と仮設住宅や在宅避難者を巡回し、高齢者の孤独死や孤立を防ぐ取り組みを続けています。派遣された社員は、日頃の業務スキルを活かし、キャンナス東北に集まる住民情報のデータベースを作成し、地域の医療福祉介護の課題を見える化するとともに、業務フローを見直す支援を実施し、キャンナス東北がより活動に注力できるように環境作りをサポートしました。

- 業務フローの改善とその定着
- 住民情報のデータベース化、蓄積したデータから得られる課題の可視化
- 助成金申請書の作成支援
- Excel、SalesForceなどITを活用した業務効率改善のキャパシティビルディング



派遣された10名の社員

(ETIC.)

企業ニーズ ヒアリング

- 活動テーマ
- 活動地域
- 居住環境 など

(ETIC.)

派遣先候補 の提案

(企業、ETIC.)

現地団体と の調整

- 現地視察
- 派遣期間
- 活動内容

(企業)

社員派遣 スタート

現地で活動した社員の声

・日々の業務意識と医療分野で活動しているボランティアの方々の考え方の違いが新鮮だった。今後、社内業務を進める時にも、関わる人達の考え方の違いを、コミュニケーションを通じて理解していきたい。
・普段当たり前に行っている自分の仕事にも意味があるのだと気づかされた。
・瓦礫撤去のようなボランティアとは違った形で、企業人としてのスキルをいかして現地支援ができるのだと感じた。

キャンナススタッフの声

被災地で訪問看護・介護等の活動をしていると、毎日たくさんの情報が集まってきますが、外部に発信する時に、言葉だけでなく状況を分析、データ化までとはとてもすることができず、目の前の活動に力を注ぐ事に精一杯になっていました。損保ジャパンの皆さんに作っていただいたデータを元に、市の担当者に今年度の活動内容を早速報告しました。黙っていても被災地に目を向けていただける時期が終わった今、キャンナス東北がこれから活動していく中で、損保ジャパンの皆さんと協働で作ったデータが、私達の力になっていくと思います。関わってくださった皆さまに感謝しています。

事例② 企業の専門性を活かした支援

企業の衛生管理の専門性やノウハウを 現地事業者へ伝える支援

花王株式会社： 飲食関係の事業者向け衛生管理講習会
(2013年2月5日)

【支援先】 復興に取り組む飲食関係の起業家7名

【地域】 宮城県南三陸町

【内容】

食品の調理にあたって、注意すべき衛生管理のポイントと、業務行う上で考えるべき基本的な注意点について

【実施概要】

花王株式会社は、被災地域で飲食関連で起業した事業者を対象に衛生管理講習会を実施しました。講習会は、食を扱う際の正しい手洗いの方法、食品が従来持つ微生物から派生する食中毒のリスクや調理環境を衛生的に保つための方法、家庭での調理加工と売り物としての調理加工のリスクの違い、販売する際に必要なアレルギー物質の義務表示の考え方など、日頃、外食産業や病院・介護施設、ホテル等のプロフェッショナル向けに活動を行なっている社員の業務の強みを最大限に活かした内容となりました。



普段の手洗いでの洗い残しを、特殊溶剤で確認する様子



実際の調理場を使用した講習会の様子

参加者の声

講習会に参加した起業家からは「モノを作って売るために大切なこと、勉強していきたいと思いました」、「十分に手洗いをしたつもりでも洗い残しがずいぶんあったことに驚きました」、「実際の現場での利用方法などわかりやすく教えていただきました」などの感想が上がり、現地の事業を企業の持つ専門性で支援する機会になりました。

情報発信 イベント「みちのく復興事業シンポジウム」

株式会社電通：企画・プロデュースの協力

● 2013年3月13日 参画企業5社による初の共催イベント「みちのく復興事業シンポジウム」

みちのく復興事業パートナーズは、企業が連携して復興支援していくことの意味や、企業にとっての社会貢献活動の新たな形を多くの企業のCSR担当者や関係団体と共有することを目的に、参画企業5社による初の共催イベント「みちのく復興事業シンポジウム」を電通ホールで開催しました。

イベントには企業を50社を含む200名を超える参加がありました。キーノートセッションでは、一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会の半谷氏、株式会社長谷川建設/なつかしい未来創造株式会社の長谷川氏、一般社団法人ふらっとーほくの松島氏が登壇し、被災地の自立的復興に最も必要な物は新規事業や新商品の開発にあたって発揮する企業本来のマネジメント力へのニーズが大きいこと、そして現地側は取り組みの見せ方が弱いのが課題であり、現地から企業へ提案していく動きも必要、という意見ができました。

続いてのパートナーズ企業のセッションでは、5社の取り組みを発表。最後に、日本経済新聞論説委員の石鍋氏より、企業が社会貢献活動を継続するための位置づけとして、イノベーションとモチベーションというキーワード出し、日本企業の経営のヒントになっていく可能性についてコメントを頂きました。

◇ キーノートセッション「被災地の自立的復興と企業の役割」

- 株式会社長谷川建設 代表取締役社長 / なつかしい未来創造株式会社取締役
長谷川 順一 氏
- 一般社団法人 福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会
半谷 栄寿 氏
- 一般社団法人 ふらっとーほく
松島 宏佑 氏

モデレーター

NPO法人ETIC. 代表理事

宮城 治男

◇ セッション「復興に向けた企業の取り組みと今後の可能性について」

- 味の素株式会社 CSR部
小口 桂子 氏
- 花王株式会社 コーポレートコミュニケーション部門
サステナビリティ推進部長 (兼) 社会貢献部長
嶋田 実名子氏
- 株式会社損害保険ジャパン CSR・環境推進室長
酒井 香世子 氏
- 株式会社電通 社会貢献・環境推進部 専任部長
中村 優子 氏
- 株式会社ベネッセホールディングス 広報IR部CSR推進課 課長
龍 千恵 氏

コメンテーター：日本経済新聞社 編集委員兼論説委員

石鍋 仁美 氏



キーノートセッションに登壇した復興に取り組む現地のリーダーたち



みちのく復興事業パートナーズを通じた企業の取り組みを紹介

みちのく復興事業パートナーズの今後の展開

● 現地のニーズと企業リソースのマッチング

2012年度のパートナーズの取り組みを通して、東北の自立的な復興に企業のリソースを活かした支援の軸として、現地のリーダー・起業家・右腕など、事業の担い手を支える（ヒトづくり）と、彼らの事業が成果を生み、持続的に発展していくことを支える（コトづくり）が、重要であるという気付きを得ました。2013年度は、この「ヒトづくり」「コトづくり」を軸に、現地のニーズと参画企業をマッチングして支援に取り組んでいきます。マッチングは個社のテーマに基づいたものや、多様な専門性を持つ企業が参画するパートナーズの特長を生かし、複数社（2～6社）の連携に取り組んでいきます。

◇ 福島県南相馬市で活動する「福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会」への社員派遣による支援（7月～10月）

社員の派遣先は、太陽光発電所と植物工場を舞台とした体験学習を通じて地元の子どもの成長を支援し、全国の人々と交流する復興の拠点を目指している団体。「コトづくり」支援として、現地に派遣された社員が、地元市民が関われる地域コミュニティの再生を目的とした仕組み作りに取り組めます。

◇ ベネッセ・電通 みちのく創発キャンプ（7月）

「ヒトづくり」支援として、教育関連サービスに専門性を持つベネッセと、コミュニケーション領域に知見を持つ電通が連携して、現地リーダーとそのチームを対象とした研修プログラムを実施します。参加団体が組織や立場を超えて課題を共有し、解決に向けてアイデアを出し合い、具体的なアクションを探っていくもので、数ヵ月後にフォローアップ研修を行う予定です。

● 継続的な情報発信

現地のリーダー・起業家・右腕たちによる変化する地域や活動団体の状況、参画企業の被災地支援における実績を訴求するイベント、レポートなどで、情報発信していきます。

◇ 「みちのく復興シンポジウム」などのイベント

◇ みちのく復興事業パートナーズWeb

● 東北支援への社員参画の機会づくり

東北の自立的に復興の流れを支えていくには、多様化していく現地のニーズに応え、その成果が現地に根付いていくことが大切だと考えています。そのためには多様な専門性やノウハウを持つ多くの社員が主体的に支援に参画できる機会を作り、現地のリーダーたちと継続した信頼関係を築いていくことが重要だと考えています。そして多様な社員の関わりによって生まれたアイデアを、企業の支援に生かせるプラットフォームづくりに取り組んでいきます。